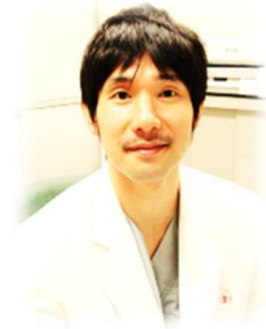




院長の専門について

2020年4月1日発行
馬 詰 眼 科

馬詰朗比古院長が専門としている疾患について聞きました。



2月より院長を継承し、当院で従事しております。
現在、私も前院長より引き継ぎ
白内障手術、まぶたや翼状片手術等を担当しております。
私は2月以前まで、東京医科大学病院で働いていました。
そこで主に診ていた疾患
ぶどう膜炎領域、神経眼科領域、斜視について
今後も当院で診てまいりたいと思っており、
それらの眼疾患について御紹介します。

まず「ぶどう膜炎」という聞きなれない病気について簡単にご説明します。
ぶどう膜炎とは目の組織の一部であるぶどう膜(虹彩・毛様体・脈絡膜)
を中心に炎症が起こる病気です。

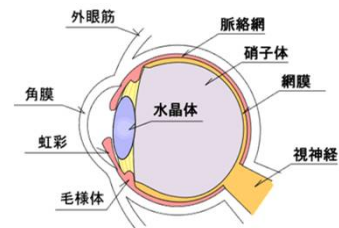
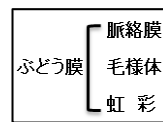
症状は、主に

- ・霞み(白っぽく見える等)
- ・羞明(まぶしい)
- ・充血、痛み

を伴い、視力が低下するものです。

これらは放っておくと、視力が回復しないほどのダメージを負うこともあり
早急に診断して治療を開始する必要があります。

ぶどう膜炎は、原因が特定できないものから、
何らかの病原体に感染して生ずるものまで多種に及びます。
原因が特定できないものについては、免疫が関係するものがあります。
免疫にも「自己免疫」というさらに聞きなれないものがあります。
免疫とは体に異物(ウイルスや細菌等)が入ってきたときに
自分の身体を守るために起こす反応ですが、それが何かの拍子に
自分の身体が自分(ここでは眼)を免疫反応で攻撃してしまう現象です。



ここまで来ても、なんだか分からないと思いますが、
眼科の世界でもこの領域を専門にする先生は少なく「なんだか分からない」と
困る先生も多いのです。幸い私はこの領域を専門としています。
特に私が働いていた東京医科大学は、日本でも有数のぶどう膜炎診療の
専門施設であったので、多くの疾患を経験することができました。
これらの経験を当院でも活かしていければと思っています。

皆様におかれましては、「かすむ」「まぶしい」「曇る」
「目が赤い」「痛い」等の症状があれば、なんでもご相談ください。
当院には様々な検査機器があり、それらで直ぐに検査することが可能です。
ぜひお申し出ください。

長くなってしまい、編集委員からは「神経眼科・斜視」についても
説明してくださいと言われましたが、これについては次回号以降でご説明します！！





看護より

～薬のみ処方希望の場合でも、医師との面談が必要です。～

薬の処方厚労省で定める「医師法」により

「医師が患者さんと対面で診察をしなければ、
処方箋を発行する事はできない」と決められています。

ただし、どうしても本人が来院できず家族が代理で来院した場合には

「医師が家族と対面し病状を聞いた上ならば、

処方箋の発行を認める」とされています。

処方されている薬や病状によっては診察が必要な場合があります。

また、当院では薬のみ処方希望の場合でも3ヶ月毎の診察が必要です。

病状に変わりがある場合や、

普段と違う薬をご希望の場合も診察が必要です。



検査より

～学校健診の結果でお越しの際は～

新年度になり、学校健診が行われる時期になりました。

正確な視力を測定するために、待合室では

- ・スマートフォン
- ・携帯ゲーム
- ・読書

等を控え、目を休めるようにしてお待ちください。

診察の結果によっては眼鏡処方が必要になる場合もあるので
時間に余裕を持って来院してください。



事務より

～クレジットカードによるお支払いについて～

診療費・手術費・各種診断書・コンタクトレンズご購入等のお支払いに
クレジットカードのご利用が可能です。

使用できるカードは

VISA、MasterCard、セゾンの3社です。

暗証番号の入力、またはご契約者のサインが必要です。

なお、機器およびサーバーのメンテナンスにより、
ご利用になれない場合もございます。ご了承ください。



◇編集後記◇

新年度になったので

何か新しい趣味を始めて

みたいと思います。

(長塚)

発行・編集 馬詰眼科

〒197-0023 東京都福生市志茂224-1 Tel: 042-553-9521

うまとび編集担当/仲野・水谷・坂本・長塚・小川・外川

